

問い合わせ先

第二管区海上保安本部 海洋情報部

監理課長 牛島 学

電話 022-363-0111 (内線 2510)



令和3年1月21日
第二管区海上保安本部

田山利三郎博士の功績紹介パネルを村田町に記念贈呈 ～令和3年は海図150周年～

明治4年(1871年)、我が国が単独で、近代的技術をもって、海洋調査から海図作製までを一貫して行う本格的な水路業務を開始し、明治5年(1872年)に海図「りくちゅうのくにかまいしこうのず陸中國釜石港之圖」を刊行しました。

令和3年は、近代的水路業務を開始してから150周年を迎えることから、第二管区海上保安本部は、海図150周年を記念した各種事業を実施する予定です。

その一環として、海上保安庁において海洋調査や海底地形研究に多大なる貢献をした宮城県村田町出身の田山利三郎博士の、功績を紹介するパネルと博士が編集・作製に携わった「日本近海深淺図」の複製を宮城県村田町歴史みらい館に記念贈呈します。

○田山利三郎博士について

1897年(明治30年)宮城県村田町で生まれ、東北帝国大学を卒業後、1937年(昭和12年)、同大学理学部の助教授の併任で、南洋庁熱帯産業研究所の技師となり、南洋群島の地質・珊瑚礁の研究に取り組みました。戦後は、1947年(昭和22年)海上保安庁(当時は運輸省)水路部の測量課長に就任して海底地形の研究に従事しました。1952年(昭和27年)9月24日、測量船での海底火山調査に赴いた明神礁の海底火山噴火に巻き込まれ殉職されました。

○日本近海深淺図

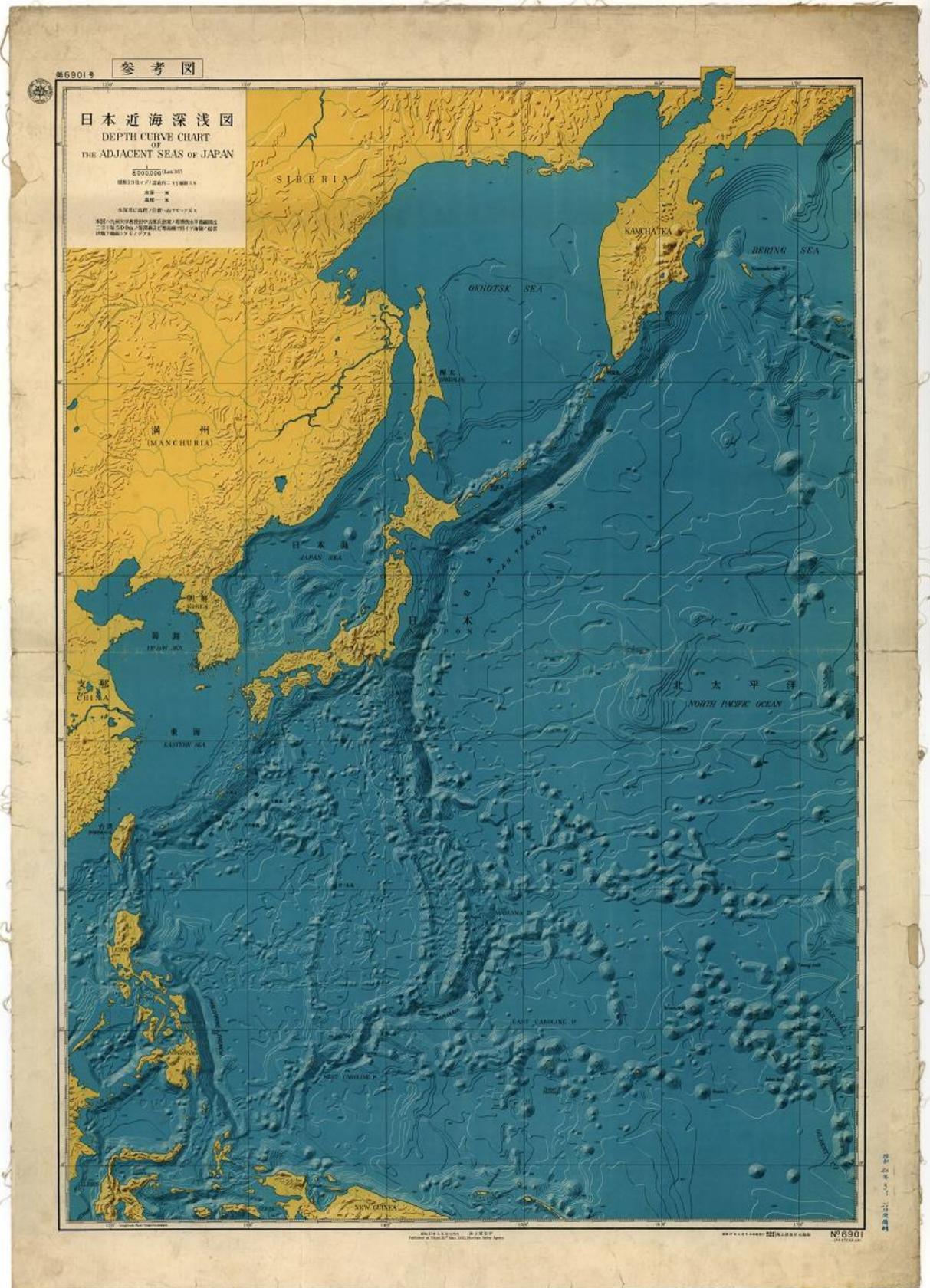
1952年(昭和27年)3月刊行の海底地形図。当時、水路部が長年蓄積してきた水深データを使用し作製しました。田山博士は、「日本近海深淺図」の解説論文を「水路要報」に掲載し、フィリピン海、北西太平洋の海底地形の詳細を説明しています。

この「日本近海深淺図」などを参考に、米国の海洋地質学者H.H.ヘスやR.S.ディーツが海洋底拡大説を提唱し、プレートテクトニクスに発展していきました。

○宮城県村田町歴史みらい館へパネル等の記念贈呈

【日時】 1月28日(木) 1330

【場所】 宮城県村田町歴史みらい館



記念贈呈する「日本近海深淺圖」

○記念贈呈（1月28日：宮城県村田町歴史みらい館）



○田山利三郎博士関連のリンク（2021年2月2日現在）

- 宮城県村田町歴史みらい館

<http://www.town.murata.miyagi.jp/kosodate/miraikan/index.html>

- 季刊水路第173号（日本水路協会）

水路部測量課長田山利三郎博士の足跡<1> 八島邦夫

<https://www.jha.or.jp/jp/shop/products/suiro/pdf/suiro173.pdf>

- 季刊水路第174号（日本水路協会）

水路部測量課長田山利三郎博士の足跡<2> 中陣隆夫

<https://www.jha.or.jp/jp/shop/products/suiro/pdf/suiro174.pdf>

- 季刊水路第175号（日本水路協会）

水路部測量課長田山利三郎博士の足跡<3> 海老名卓三郎

<https://www.jha.or.jp/jp/shop/products/suiro/pdf/suiro175.pdf>

- 季刊水路第162号（日本水路協会）

「大洋底拡大説」の前夜－RS ディーツ「日本近海深淺図」と天皇海山列－
中陣隆夫

<https://www.jha.or.jp/jp/shop/products/suiro/pdf/suiro162.pdf>